

令和 4 年 6 月 26 日現在

機関番号：10106  
研究種目：研究活動スタート支援  
研究期間：2021～2021  
課題番号：21K20006  
研究課題名(和文) ソネット連作における男性と女性の声ーシドニーを中心に

研究課題名(英文) Male and Female Voice in Sonnet Sequences

## 研究代表者

青木 愛美 (Aoki, Emi)

北見工業大学・工学部・准教授

研究者番号：60908151

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、男性詩人のソネットに登場する女性の声に注目し、ソネットにおける女性の役割を研究した。その一例としてサー・フィリップ・シドニーの『アストロフェルとステラ』におけるステラの声を手がかりにソネットにおける女性の役割を明らかにすると共に、ソネットの“speaker”であるアストロフェルともう一人の“speaker”の役割を担う「主体」としてのステラの可能性について明らかにした。研究期間において、学術論文1本を発表した。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

初期近代英文学研究では女性によって執筆された作品への関心が高まると共に、男性詩人の作品内の女性に焦点が当てられることも増えてきた。本研究ではシドニーのソネット連作内に点在する女性の声を探り、それに焦点を当てることでテキストの新たな読みの可能性を示すことができた。

研究成果の概要(英文)：This study focused on the role of women in sonnets by focusing on the female voice in sonnets written by male poets. Using the voice of Stella in Sir Philip Sidney's *Astrophel and Stella* as a clue, this paper clarifies the role of women in the sonnet and the possibility of Stella as a “subject” who takes on the role of Astrophel, the “speaker” of the sonnet, and another “speaker” of the sonnet. During the research period, I published one academic paper.

研究分野：英米・英語圏文学

キーワード：ソネット 女性の声 語り手

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の学術的背景として、シドニーの『アストロフェルとステラ』(*Astrophil and Stella*, 1591, 以降 AS とする) は 1580 年代に書かれ、シドニーの死後にトマス・ナッシュ (Tomas Nashe, 1567-1601) によって出版され、多くの研究者によって様々な研究がなされてきた。この連作ではアストロフェルという男性がステラという女性へ向けてソネットを語る形式をとっており、基本的に一人称 “I” からステラ “you” へ語りかける書き方がなされている。AS は大抵三部構成になっていると考えられるが、第一部ではステラの名前が述べられてはいるものの、初めのうちはステラ以外の誰か、あるいは何かへ呼びかける手法がとられている。ノーナ・フィエンバーグ (Nona Fienberg) によると、ステラのことを初めて “you” で示している箇所はソネット 30 番であり、彼女が彼の目の前にいて、彼女の声がソネットの中に現れ始め、それまでアストロフェルを通してしか語られなかったステラの性質が明らかになっていく。ここから女性であるステラと男性詩人アストロフェルとの対話が可能になると指摘している。A.C.ハミルトン (A.C. Hamilton) はソネット 36 番から 72 番を第二部としており、アストロフェルからステラへ直接呼びかける箇所があるソネット 36 番では、戦のメタファーが用いられていることから、ステラの中の男性性に言及している。

これまで初期近代イギリスの女性詩人の作品を研究してきたが、その中で特にメアリー・ロウス (Lady Mary Wroth, 1587-1653) に注目してきた。彼女はサー・フィリップ・シドニーの姪であり、女性の登場人物によって語られるソネットをイギリスで初めて執筆した女性詩人である。ロウスのソネット連作『パンフィリアからアンフィランサスへ』(*Pamphilia to Amphilanthus*, 1621) はパンフィリアという女性がアンフィランサスという男性へ向けて詩を語るという形式をとっているが、男性詩人によって書かれた一般的なソネットと異なり、相手へ直接語りかけるわけではなく、手紙のような形で届かないことを想定して書かれており、こういった点が女性詩人独自の手法と考えられる。しかしその一方で、ロウスのソネット連作にはシドニーの作品と似通った点、いわば模倣が見られ、シドニーのソネット連作、及び散文ロマンスである『オールド・アーケイディア』(*The Old Arcadia*) の研究も同時に行ってきた。ロウスのソネットにおいては、女性の語りによって進行し、男性であるアンフィランサスは姿を表さず、声すらも持たない。これにはパンフィリアの目の前にアンフィランサスがいないという、手紙のような形式で書かれていることを強調する役割がある。これに対し、ロウスが模倣したであろうシドニーのソネット連作においては、ステラは一応アンフィランサスの目の前にいることになっているが、その場合のステラの扱いに疑問が生じ、本研究の着想に至った。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、AS をハミルトンの指摘するステラの「男性性」に読み手が注目するよう仕向けられていると読み解くことも可能であることから、女性が自由に発言することが困難であるような時代に、たとえフィクションであれ、女性に男性的要素、とりわけ「声」を与えようとしたシドニーにはどんな意図があったのかを確認し、男性詩人とその作中の女性の特徴を明らかにしていくことである。ここで言うソネットにおける「声」とは、作中で各登場人物によって語られる言葉を指し、主たる語り手 (speaker, poet) によって代弁されている場合でもその登場人物の「声」と考える。また、詩における語り手は多くの場合その詩の執筆者と近い立場ではあるが、語り手を執筆者と同定できるわけではなく、語り手はあくまで創作上の人物であると考え (speaker poet) これらを念頭に置き、語り手をアストロフェル シドニーとした場合に語りの外側、つまり傍観者という立場でシドニーが何を表したかったのかも同時に探っていく。先行研究には、アストロフェルからのステラへ向けた語りからステラの性質を読み解くものが多く、ステラの「声」に着目するものは少ない。しかし、AS には明らかにステラが声を持ち、自分でアストロフェルに向けて何かを語っている箇所があることから、ステラが自らの声で何を語り、それが何を意図しているのかを明らかにしない限り、作品全体を通してシドニーが示そうとしたことは見えてこないと考え、女性の「声」に着目した。

## 3. 研究の方法

### (1) 連作内の女性の声抜粋

シドニーの『アストロフェルとステラ』においてステラの声が表出していると考えられる箇所を見つけ出し、それらの性質を探る。

## (2)主体の考察

詩の語り手が男性である場合に対象としてしか存在し得なかった女性が声を持った際に、語りはその声の持ち主と共に変化するのかを確認し、男性の語り手による語りと比較することで主体となる可能性を検討する。

## 4. 研究成果

(1)ASにおいてステラの声は次の3通りで表出していることがわかった。

アストロフェルが書いた詩をステラが声に出して読む

ステラの言説がアストロフェルによって伝えられる

ステラの声が直接話法で示される

はソネット 57、58 番で示される。この場合、詩におけるアストロフェルのステラへの呼びかけがそのままステラの声を通してアストロフェルに返ってくることになるため、ステラによってアストロフェルが称賛される構図が出来上がる。はソネット 61、62、69 番で示される。ここからステラは欲望を伴わない神聖な愛を求めていることがわかる。それがアストロフェルによって伝えられることでステラ自身は美徳の一つである「沈黙(silence)」を維持することができる。はソネット 63 番、及び第 4、8、11 ソングに表出する。ここで示されるのはアストロフェルに対するステラの拒絶の言葉となっており、美徳の一つ「貞節(chastity)」を維持することができる。初めは詩人の声を反復するだけだったステラだが、詩人の声を通して自分の言葉が表現され、当時の女性の美徳を保持しつつ最後には自分の声で直接詩人へ応答をおこなうようになる。

(2)ASの第 11 ソングでステラが直接発言を行う箇所では、アストロフェルによる賛美への拒絶が示される。女性賛美のコンヴェンションを女性自身が拒否することで、賛美の「対象」となることからの脱却の試みが読み取れる。またステラは声を持つことで、男性によって支配される女性から、アストロフェルの詩の技術を体現する存在へと変化することができた。フィクションの中で女性が声を持つことは、現実において抑圧された「自分の意思」を語る「主体」としての役割の付与を意味することが読み取れた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 青木 愛美	4. 巻 55
2. 論文標題 'Sweet said that I true love in her should find' 『アストロフェルとステラ』における女性の声	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東北（東北学院大学文学研究科）	6. 最初と最後の頁 77-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------